埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書（第Ⅲ次）

－農業集落排水事業（手良地区）－

辻西幅遺跡

2004

伊那市教育委員会
伊那市水道部下水道課

第Ⅰ章　発掘調査の経過

第１節　発掘調査に至るまでの経緯

今回、発掘調査の対象となった辻西幅遺跡は農業集落排水事業（手良地区）に伴う緊急発掘調査であり、調査の実施に至るまでには各種の保護協議、事務手続が行われ、それらを流れに沿って記す。

平成14年10月11日、長野県教育委員会文化財・生涯学習課指導主事、伊那市教育委員会生涯学習・スポーツ課職員、伊那市水道部下水道課職員とで伊那市役所会議室にて三者協議を実施する。

平成15年８月20日付けで、伊那市長小坂樫男と市内遺跡発掘調査団（辻西幅遺跡）団長御子柴泰正両者間で埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書を締結する。

平成15年９月30日付けで、辻西幅遺跡発掘調査終了報告書を長野県教育委員会教育長宛に提出する。

平成15年９月30日付けで、辻西幅遺跡埋蔵物発見届を伊那警察署長宛に提出する。

平成15年９月30日付けで、辻西幅遺跡埋蔵文化財保管証を伊那警察署長を経由して長野県教育委員会教育長宛に提出する。

平成16年１月６日付けで、伊那市長小坂樫男と市内遺跡発掘調査団（辻西幅遺跡）団長御子柴泰正両者間で変更委託契約書を締結する。

第２節　発掘調査の組織

緊急発掘調査に着手する前に次のような組織編成を行い、万全を期した。

委員長	登内　孝	
委員	上島武留	
〃	伊藤晴夫	
〃	田畑幸男	
教育長	北原　明	
教育次長	伊藤　隆	
事務局	塚本哲朗	（生涯学習・スポーツ課長）
〃	白鳥今朝昭	（生涯学習・スポーツ課長補佐　社会教育係長）
〃	武田一夫	（生涯学習・スポーツ課長補佐　青少年係長）
〃	飯塚政美	（生涯学習・スポーツ課主幹）
〃	山口千江美	（生涯学習・スポーツ課主査）
〃	北林　太	（　〃　）

事　務　局　田　原　節　子（生涯学習・スポーツ課主査）

発掘調査団

団　　長　御子柴　泰　正（長野県考古学会会員）

調　査　員　飯　塚　政　美（日本考古学協会会員）

〃　　本　田　秀　明（長野県考古学会会員）

作　業　員　城倉三成　織井和美　酒井公士郎　有賀秀子　那須野進　松下末春

小田切守正（敬称略順不同）

第３節　発掘調査日誌

平成15年９月19日（金）現場にテントを南北に一張建てる。現場は半年間、何も手を入れていなかったので一面に背丈の高い草地となっていた。従って、テントを建てる位置一帯をビーバーにて草苅りを実施した。テントを建てた後、西側から南北状にトレンチを入れる。本日は西側から第１号トレンチ、第２号トレンチと命名し、発掘調査する。地層の状態はテフラ層、砂層、細砂礫層と複雑多岐であった。第１号トレンチの北側の東壁より平安時代の土師器片出土。

平成15年９月22日（月）午前中は昨日、通過した台風による雨に濡れた道具類を乾かした。従って、作業員は３名と少なくて済んだ。午後より本格的に掘り進め、いつもの人数になった。第３号トレンチを設定し、発掘調査する。第１号トレンチ、第２号トレンチの状態はともに同様であった。第４号トレンチを設定し、掘り進めていくと、このトレンチの中央部付近より見事な分銅形の打製石斧が出土した。木材の切り倒しに利用したのであろうか。第１号トレンチ、第２号トレンチの写真撮影を終了する。

平成15年９月26日（金）第４号トレンチを完掘する。第３号トレンチ、第４号トレンチの写真撮影を終える。第４号トレンチの西側の南北のセクションを実測。全測図の作成。

平成15年９月27日（土）農業集落排水事業の起工式が10月１日に実施されるために土曜日であったが、一日作業を実施した。全ての後片付けを終える。

平成15年11月～平成16年１月　報告書の図面、図版作成、原稿執筆、編集を終えて、印刷所へ入れて、印刷を開始し、校正を行い、１月の報告書刊行に努力を払った。

平成16年１月　報告書を刊行し、本事業の完了をみた。　（飯塚政美）

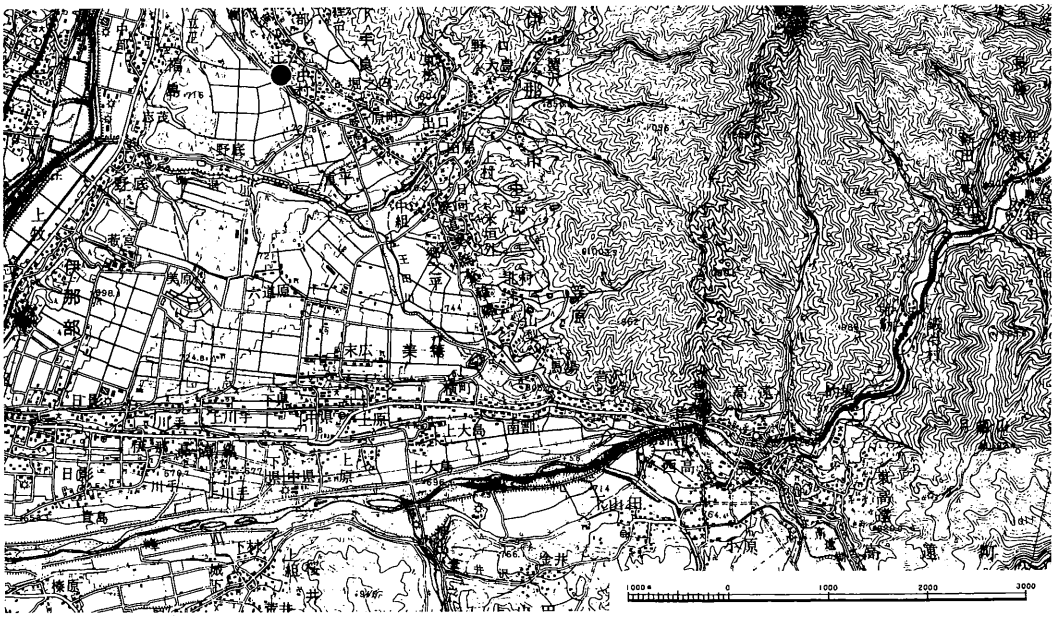
第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置

辻西幅遺跡は長野県伊那市大字手良沢岡、下手良の八ッ手辻地籍の東方部一帯に広がりをもっている。遺跡地に至る道順は凡そ三方向に限定されるであろう。その内最も分かりやすいル

ートはＪＲ飯田線伊那北駅で下車して東進し、天竜川を渡り、主要地方道伊那・辰野線（通称竜東線）を辰野方面へ約６km北進し、卯の木交差点を右折して県道美篤・箕輪線に入り、東方へ１km位進むと辻集落の大きな三叉路に着く、この周辺一帯が遺跡地の中心地であろう。

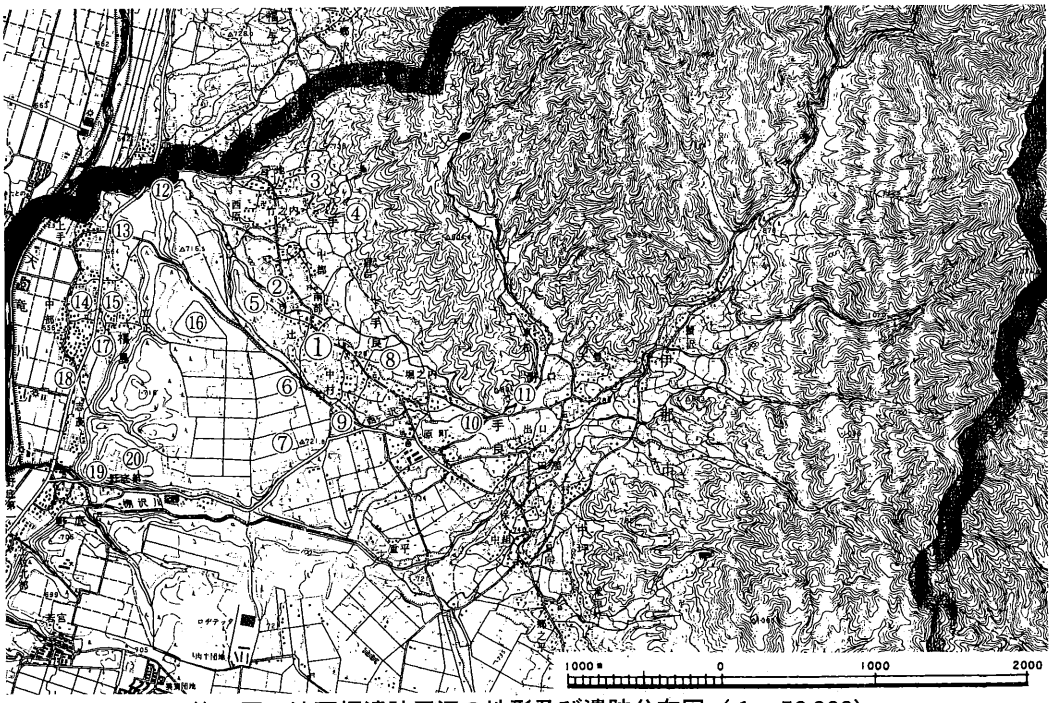
今回の調査地点はその中心から「大照神社」の前の道路を西方へ約１km行った凹地状地形のところである。



第１図　辻西幅遺跡の位置図（１：75,000）

第２節　地形及び周辺の遺跡分布

今回、発掘調査を実施した地点は沢岡川の左岸で、大きく凹地状地形を成している。この地



第２図　辻西幅遺跡周辺の地形及び遺跡分布図（１：50,000）

点は本遺跡地では最西端部に位置し、前述したような事由によって砂層の堆積が厚く、ソフトテフラ層へ達するまでに約１ｍもあった。周辺は森林地帯が展開しており、日陰の時間帯も長く、作物の出来も良好ではなかったと思われる。従って、土地改良事業の手も入らず、荒地状態であった。

次に第１表に基づいて周辺の遺跡について触れてみよう。第２図と第１表の番号は同一であり、二つを照合して見て頂きたい。表の内で時期については土器編年を採用した。この表の内で実際に今までに発掘調査を実施し、報告書を刊行した遺跡は次の通りである。①辻西幅、②島崎、③堤林、④山の田、⑤中原、⑦松太郎窪、⑩鍛冶垣外。これらについて詳細な事は報告書を参照して頂き、今回は紙面の都合上で割愛させて頂く。表と図を照合しながら見ていただければある程度、それぞれの遺跡の実態が理解できると思われる。

第１表　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	地形	時　期
1	辻西幅	手良沢岡	扇状地上	平安時代土師器　平安時代須恵器　平安時代灰釉陶器
2	島　崎	〃八ッ手	台地上	平出３Ａ　井戸尻　曽利　中島　中世陶磁器類　中世内耳土器　近世陶磁器類
3	堤　林	〃	扇状地上	大洞Ａ　樫王　平安時代土師器　永楽通宝　中世陶磁器類 近世陶磁器類
4	山の田	〃	山麓線上	楕円押型文　鵜ヶ島台　子母口　梨久保　井戸尻　曽利　水神平Ⅱ　平安時代土師器　平安時代須恵器
5	中　原	〃	扇状地上	中島　平安時代土師器　平安時代須恵器　平安時代灰釉陶器
6	垣　外	〃下手良	平地上	曽利
7	松太郎窪	〃	扇状地上	楕円押型文　曽利　平安時代土師器　平安時代灰釉陶器
8	角　城	〃	台地上	平安時代須恵器
9	南垣外	〃	〃	〃
10	鍛冶垣外	〃 野口	扇状地上	曽利　堀ノ内　中島　平安時代土師器　平安時代須恵器　平安時代灰釉陶器　中世陶磁器類
11	古八幡	〃	山麓線上	中島
12	南　原	福　島	段丘上	曽利　堀ノ内　平安時代土師器　平安時代須恵器　平安時代灰釉陶器
13	大上平	〃	〃	平安時代土師器　平安時代須恵器　平安時代灰釉陶器
14	福島上平Ⅲ	〃	〃	〃
15	福島上平Ⅰ	〃	〃	平安時代土師器　平安時代須恵器　平安時代灰釉陶器
16	池火平	〃	〃	曽利　中島　平安時代土師器　平安時代須恵器　平安時代灰釉陶器
17	福島上平Ⅱ	〃	〃	平安時代土師器　平安時代須恵器　平安時代灰釉陶器
18	福島上平Ⅳ	〃	〃	〃
19	福島古墳群	〃	〃	横穴式石室　円墳　８基
20	原	〃	〃	曽利

第Ⅲ章　遺構と遺物

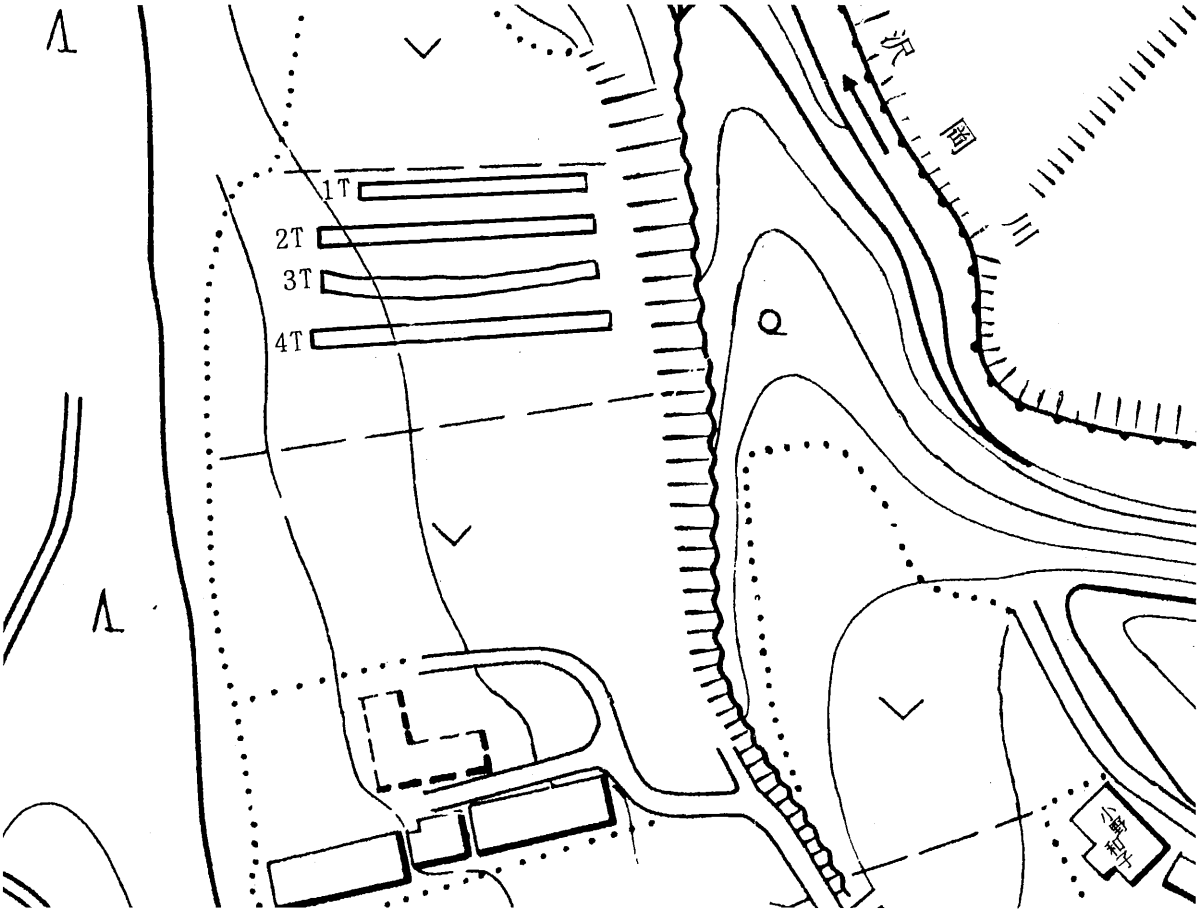
第１節　調査の概要

今回の調査で辻西幅遺跡は第Ⅲ次調査となる。

第１回目は、平成６年度県道美篤・箕輪線拡幅工事事業による緊急発掘調査で、平安時代中期頃の竪穴住居址が６軒検出され、それにともなって同時期の土師器・須恵器・灰釉陶器が出土した。なかでも「王」という字を書いた墨書土器はひときわ目立つ存在であった。翌年、同関連事業として発掘調査を実施し、平安時代中期頃の竪穴住居址２軒の検出を見た。今回の調査は前述したように地形的に見て、凹地状の所であり、当初より遺跡の存在性は極めて薄いものと見て、調査に踏み切ったわけである。結果的にみて、第２節で述べるだけの２点の遺物が出土したのみであった。

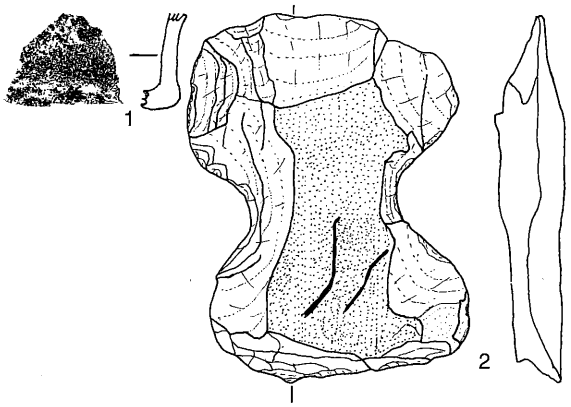
第２節　遺構と遺物

遺構の検出は何もなく、前節で触れたように辻西幅遺跡の濃密地点はもう少し東側へ寄った地点になると思われる。



第３図　地形及びトレンチ配置図（１：1,000）

遺物の出土は第４図に掲載したのみである。(1) は第１号トレンチ。(2) は第４号トレンチ内より出土している。(1) は平安時代中期頃の土師器の底部の破片であり、明茶褐色を呈し、焼成は極めて良好で、多量の雲母を含む。(2) は縄文中期頃に編年づけられる分銅型の打製石斧で、硬砂岩を用い、出来ばえは見事である。

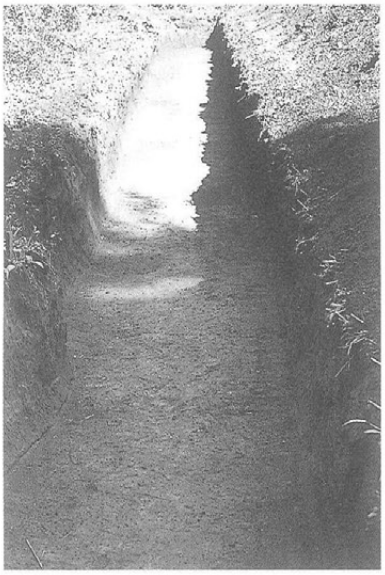


第４図　出土土器拓影・出土石器実測図

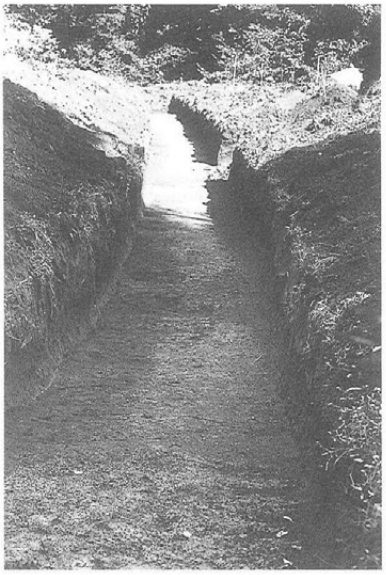
第Ⅳ章　所　見

今回発掘調査を実施した地点はいわば、辻西幅遺跡の散布地と考えざるを得ない。その理由としては、すぐ北側に隣接した沢岡川の何度にもわたる氾濫による厚い砂層、砂礫層の堆積から見て、とても住居が造営できるような場所ではないことである。１片出土した土師器片は摩耗度合が顕著で上流からの流れによるものと想定できる。今回、出土した分銅型打製石斧はかなりの重量があり、伐材に利用したのであろう。つまり、これらの遺物からみて、住居址はなくとも縄文中期の人々にとっては生活空間の場であったことが伺えるのであろう。(飯塚政美)

遺跡地を東側より眺む

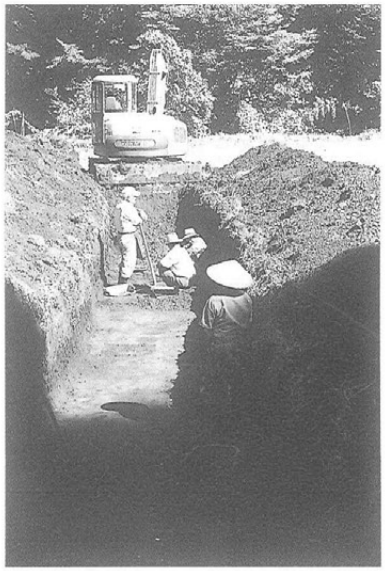


第１号トレンチ



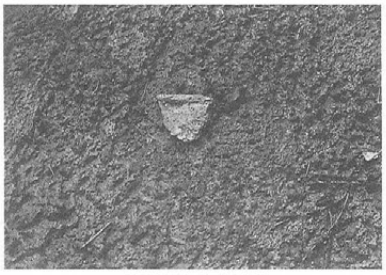
第２号トレンチ

第３号トレンチ

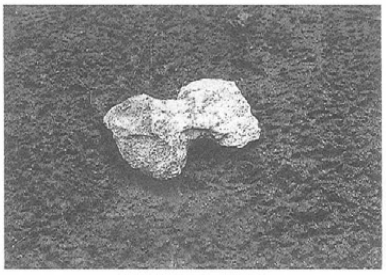


発掘風景

発掘風景



土器出土状況



石器出土状況

報告書抄録

ふりがな	つじにしはばいせき
書名	辻西幅遺跡
副書名	農業集落排水事業(手良地区)
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書（第Ⅲ次）
編著者名	御子柴 泰正　飯塚 政美
編集機関	伊那市教育委員会
所在地	〒396-8617 長野県伊那市大字伊那部3050番地　TEL0265－78－4111
発行年月日	西暦2004年1月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
つじにしはば 辻西幅	ながのけん いなし 長野県 伊那市 てらさわおか 手良沢岡	163	2529			平成15年9月19日～平成15年9月27日	100	農業集落排水事業(手良地区)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
辻西幅	散布地	縄文時代 平安時代	なし	平安時代土師器 縄文中期石器	今回の工事箇所の一部分が「辻西幅遺跡」の範囲内に含まれている可能性があり、発掘調査に踏み切ったわけである。 発掘調査を実施してみると、沢岡川の氾濫が何回もくり返されたと見えて厚く砂層や砂礫層が堆積しており、とても集落址の存在はありえないと判断出来る状況下であった。調査時に出土した土器片はその割れ口が非常に摩耗しており、上から流れてきた可能性が濃厚と思われる。 今回の発掘調査地点は凹地状地形に位置している。

辻西幅遺跡

埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書（第Ⅲ次）
―農業集落排水事業（手良地区）―

平成16年1月28日　印刷
平成16年1月30日　発行

発行所　伊那市教育委員会
　　伊那市水道部下水道課
印　刷　伊那市　㈱小松総合印刷所